

都市基盤分野

都市
基盤分野

産業分野

教育分野

I

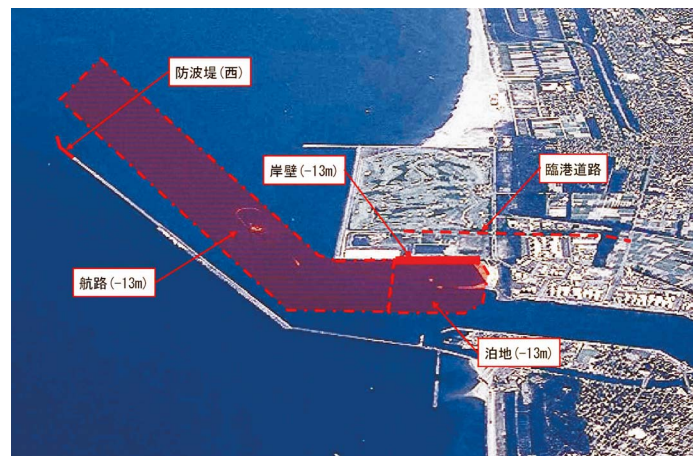
1 拠点都市機能の強化

国際交流拠点の整備・充実

現状と課題

金沢は、首都圏とアジアの中継点としての地理的優位性を持っています。今後とも、北陸新幹線、金沢港、環状道路といった広域交通基盤の整備を推進し、金沢が生み出す人、モノ、情報の発信と、世界の人々との様々な交流を促進するためハード・ソフト両面での施策の推進が求められています。また、金沢市には現在も多くの外国人

観光客が訪れていますが、北陸新幹線の開業を視野に、こうした観光面だけでなく、ものづくり産業を中心とする経済面の交流や文化、芸術、学術活動の交流など幅広い国内外の都市・人々との交流を進めることによって、さらに金沢の魅力を高める必要があります。

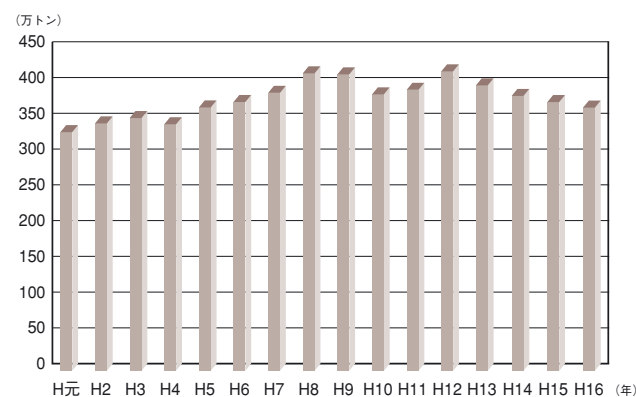


金沢港大水深岸壁計画位置図



金沢港大水深岸壁完成イメージ

■金沢港の取扱貨物量の推移



基本方針

地域企業の国際競争力の強化や物流経費の削減、グローバルな物流体制の整備を図るため、「海と空の玄関口」となる金沢港の整備を進めるとともに、小松空港の国際化を推進します。また、これらの国際交流拠点を生かし、ものづくり産業の創造を図るとともに、世界のクリエイターやデザイナー

一等との交流を進めることでクリエイティブ産業の創出をめざします。さらに、市民一人ひとりの国際性の涵養や幅広い国際交流の輪を広げるため、国際的コンベンションやメッセ、国際関係機関等の誘致を促進します。

事業計画（主な事業とその内容）

〔金沢港の整備・充実〕

船舶の大型化に対応した大水深岸壁や多目的国際ターミナル等の整備を推進するとともに、国際定期航路の拡充や複合一貫輸送[※]の推進を図ります。

〔金沢港隣接地区の企業集積〕

物流基盤施設の整備を進め、産業の競争力を高めることにより、金沢港隣接地区において全国に誇るものづくり産業クラスター[※]の形成に資する企業集積を図ります。

〔小松空港の国際化〕

アジアの玄関口としての地理的優位性を持つ小松空港の国際線、国際航空貨物路線の拡充を図り、高付加価値製品や鮮度維持が必要な製品の物流を支援するため、空港施設の整備促進及び機能の充実を進めます。

〔コンベンションやメッセ機能の整備・充実〕

国際会議やファッション関係の国際的メッセが開催できるよう、県や民間と協力しながら核となるコンベンション施設の整備を検討するとともに、各種コンベンションの円滑な開催を促進するための既存施設の連携や開催企画支援等のソフト面のシステム化を進めます。

〔国際機関等の誘致〕

日本海側における国際交流拠点都市として内外にアピールするため、在外総領事館、観光局事務所等の国際関係機関や事務所等の誘致・開設をめざします。

〔ものづくりに関する国際的イベントの誘致〕

北陸新幹線の開業にあわせ、ものづくり産業4分野の振興に向けた国際的な交流イベントの誘致をめざします。

※複合一貫輸送
船舶による貨物の幹線輸送とそれらに接続する自動車貨物輸送等を一貫して行う輸送形態。

※産業クラスター
特定の産業分野について、資材供給・生産・流通・販売などの関連企業や、金融・教育・研究などの支援機関が地理的に集中し、それらが競合しながら有機的に結びついている状態。

市民参加と協働

- ・ボランティア通訳の養成やホームステイの受け入れなど、市民レベルでの国際交流の推進
- ・地域内の企業との連携・協力による企業集積
- ・市民によるNGO、NPO等の活動の促進

都市基盤分野

都市
基盤分野

産業分野

教育分野

I 1 拠点都市機能の強化 圏域交流の推進

現状と課題

近年、自治体行政を取り巻く環境は著しく変化しています。こうした環境変化に対応するため、全国で自治体基盤を強化する市町村合併が推進され、さらには都道府県をブロック化する道州制論議も本格化するなど、これまでの地方制度のあり方が再構築されようとしています。金沢市もこれまでの行政区域に捉われない広域的な視点に立ち、都市圏域や生活圏域を同じくする近隣自治体などと連携し、北陸地域の中で拠点性を確保できる都市圏の形成が課題となっています。

近年、自治体行政を取り巻く環境は著しく変化しています。こうした環境変化に対応するため、全国で自治体基盤を強化する市町村合併が推進され、さらには都道府県をブロック化する道州制論議も本格化するなど、これまでの地方制度のあり方が再構築されようとしています。金沢市もこれまでの行政区域に捉われない広域的な視点に立ち、都市圏域や生活圏域を同じくする近隣自治体などと連携し、北陸地域の中で拠点性を確保できる都市圏の形成が課題となっています。

■圏域交流イメージ



基本方針

新たな地方再編を見据え、また広域化・複雑化・多様化する行政課題や住民ニーズへの対応、独自性を活かした地域づくりなどを進めるため、金沢市を中心とした都市圏域の自治体との連携により、交流人口の

増加をめざします。そして、自治体として最も自治権限が付与された「政令指定都市」をめざすことで、北陸地域における拠点性を高めていきます。

事業計画（主な事業とその内容）

〔圏域交流の推進〕

地域の活性化や広域連携の礎として、住民やコミュニティ組織、NPO、民間組織等によるスポーツ、観光物産、伝統芸能等の住民相互交流を積極的に推進します。さらに、外国人観光客の受け入れや外国企業の誘致など、成長する東アジア地域等を見据えた北陸地域全体の拠点性を高めるため、隣県都市との戦略的交流を推進します。

〔学術文化政令指定都市への移行〕

金沢市とその周辺部には数多くの高等教育機関が集積していることから、藩政期以来育まれた伝統文化やそれぞれの地域特性を生かしつつ、知的交流拠点、新産業創出拠点、文化創造拠点として世界に通ずる「学術文化政令指定都市」への移行をめざします。

〔圏域行政の推進〕

広域化・多様化する住民ニーズや行政課題に対応するため、圏域を同じくする自治体と情報を交換・共有し、効率的な行政運営に資するとともに、交通・産業など様々な分野での自治体間の連携を展開します。

市民参加と協働

- ・住民やコミュニティ組織、NPO、民間組織等による交流事業の実施と参加

都市基盤分野

都市
基盤分野

産業分野

教育分野

I

1 拠点都市機能の強化

新幹線開業に向けた整備・促進

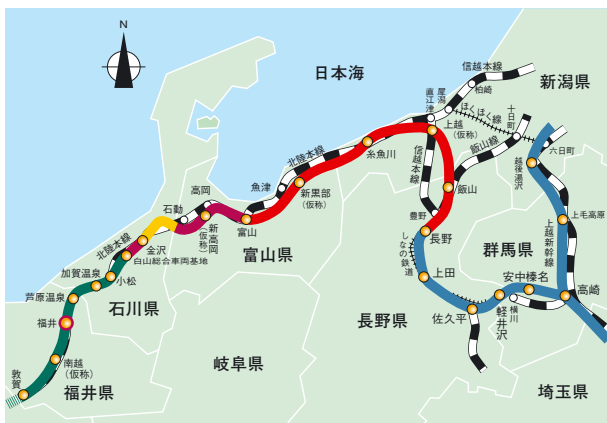
現状と課題

北陸新幹線は、日本海国土軸[※]の形成や沿線地域の発展等を図る上で大きな効果をもたらす国家プロジェクトです。富山—金沢間の建設工事が着工し、遅くとも平成26（2014）年度までの開業が決まりました。しかし、大阪までの全線整備については依

然不明確であることから1日も早い北陸新幹線の全線整備をめざすとともに、並行在来線の第三セクターによる経営、ストロー現象[※]への対応など、開業を見据えたまちづくり等が課題となります。



北陸新幹線の整備計画図



建設が進む北陸新幹線の高架橋

工事中（フル規格）	■
スーパー特急からフル規格変更区間	■
新規着工区間	■
未着工	■
既設新幹線	■

基本方針

新幹線の開業効果を最大限に引き出すとともに、金沢を単なる首都圏の日帰り圏としないための取り組みを多面的、総合的に展開します。そして、金沢駅を人が降り立

つ「真の停車駅」とすることで、金沢へ多くの人を呼び込み、交流人口の増加を図ることによって賑わいの創出と地域経済の活性化をめざします。

事業計画（主な事業とその内容）

〔北陸新幹線の建設〕

遅くとも平成26（2014）年度末の開業をめざし、できる限り早期完成に向けて整備促進を図ります。また、新幹線の整備に併せ、住民の理解と協力を得ながら新幹線沿線の環境整備を図っていきます。

〔ストロー現象への対応〕

歴史、文化、自然といった金沢の魅力を引き続き磨き高めるとともに、豊富な素材を生かし、ワンランク上の生活文化を楽しめる生活スタイルを大都市圏に発信していきます。

〔新幹線開業を見据えた駅周辺整備〕

新幹線開業を見据えた「金沢駅西広場再整備基本計画」及び「金沢駅周辺まちづくり総合整備構想」を踏まえ、乗降客を温かくもてなし、市民が行き交う賑わいの拠点としての金沢らしい駅周辺整備を推進します。

〔交流人口の増加に向けた開業効果の活用〕

観光等の従来からの交流人口に加え、金沢のポテンシャルを基礎に、芸術、文化、学術、ものづくり産業の創造による交流の拡大や大都市圏と地方の両方に拠点を持つ二地域居住の推進等の取り組みを展開します。

〔並行在来線の第三セクター設立〕

新幹線開業を見据え、県や関係機関と連携し、第三セクターのあり方を検討します。

※日本海国土軸
太平洋ベルト地帯を形成する第一国土軸に対し、北海道から日本海沿岸地域を経て九州北部に至る日本海側に高速交通・通信体系等の国土基盤を整備することにより、社会、経済、生活、文化等の機能の有機的な連結を図る新たな国土軸。

※ストロー現象
新幹線などの交通網が整備されることによって、人々の消費活動等が大都市に流れる現象。